伊那弥生ヶ丘高校同窓会報

平成 26 年 9 月 25 日発行　第5号

ご挨拶

同窓会長　小坂博子

会員の皆様には常日頃より同窓会活動へのご理解、ご協力を賜り誠にありがとうございます。

私達それぞれ同じ学び舎で過ごした時代は違いましても、母校で培われた絆は、世代を超えて頼もしい在校生に引き継がれ、103 年の歴史と伝統のもと「文武両道」にわたり、あらゆる分野で活躍し、若き夢への挑戦が続いています。

同窓会も会費を集金させていただくことになり 2 年、厳しい状況の中でしたが、各支部の役員の方々に大変なご尽力をいただきましてなんとか成果を上げることができました。具体的には、目的としてきました母校への教育活動支援、同窓会活動の充実を図る中で、今後もこの体制を継続していきたいと考えております。

また、母校のさらなる発展を図りながら、同窓会の充実により会員同士の交流を図り、絆を深めてまいりたいと思います。何卒ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

末筆ながら皆様のさらなるご健勝を心より祈念申し上げます。

Steinway & Sons

学校長　大森清幸

田んぼの稲が成長し緑濃く逞しい姿を見せております候、同窓の皆様におかれましては、お健やかにてご活躍のことと拝察申し上げます。日頃より本校の教育活動に御理解と御協力をいただいておりますこと、多大なるご支援を賜っておりますことに厚く御礼申し上げます。

本年度の同窓会総会は、平成 26 年 6 月 7 日（土）に、伊那市「いなっせ」にて行われましたが、引き続き、本校同窓生の川鍋碧里さんのソプラノリサイタルがあり、素晴らしい歌声を堪能いたしました。その折、伴奏をしていただきました北澤郷子さんのお話の中に、伊那弥生ケ丘高校には、鍵盤が象牙でできた素晴らしいピアノがある旨のご紹介がありました。後日、音楽科の先生にお話ししましたところ、そのピアノは老朽化してきておりますが、調律をして現在でも現役のピアノとして生徒の皆さんに愛用されているとのことでした。音楽室の練習室にあるそのピアノを拝見し、改めて伊那弥生ケ丘高校の伝統と熱意と優美さを感じました。なお、このピアノに関わりまして同窓会誌にも数か所に記述があります。

伊那弥生ヶ丘高等学校　校歌

作詞　宮沢　章二
作曲　中田　喜直

一　天に　雲生む　仙丈と
　呼び合う　西駒　伊那の空
　友よ　悔いなき　青春を
　この丘に　求め
　　いのち　磨く
　われらの胸に　照る光

二　春は　弥生の　あけぼのに
　夢あり　桜の　花万朶
　高き望みの　薫るとき
　溢れくる　うたよ
　　和して　ひびけ
　天竜　遠く　海をさす

三　大樹　森なす　学びやの
　窓辺に　沸き立つ　若き風
　知徳　兼ねつつ　たくましく
　開きゆく　未来
　　自主の　道よ
　日輪もまた　今燃えて

（昭和五十二年作）

◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆ 平成 26 年度総会開催 ◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆

平成 26 年度総会は、6 月 7 日、いなっせにおいて開催されました。小坂会長は挨拶で「母校への支援、同窓会の活性化へ向けよりよい活動を考えていきたい。今後も協力をお願いしたい。」と呼びかけました。

総会では、昨年度の事業、決算、本年度の事業計画、予算案の審議が行われ、また役員改選では中村副会長をはじめ 5 名の役員が退任し、新役員が承認されました。

今回、演奏会は、高校 57 回卒業生で、これからますますの活躍が期待されている声楽家、川鍋碧里さんのソプラノリサイタルを開催し、素晴らしい歌声を生徒を含め大勢の会員が堪能しました。また、続く懇親会では当番生の 25.35 回生を中心に多くの同窓生が集まり、マジックや歌の披露もあり和やかな会となりました。

一人の同窓生として

35 回生　網野喜彦

今年度同窓会の当番幹事として、企画運営に微力ながら携わらせて頂きました。

御参加頂いた皆様は、旧友との再会を喜び合い、近況や学生時代の思い出話に花を咲かせ、有意義な一日を過ごせた事と思います。

さて、近年は公立高校を取巻く教育環境は、財政面や社会事情等の理由で課題が生じています。高校入試の際は、机の傷が酷く下敷きをして試験を行ったと聞き、耳を疑いました。暖房費の自己負担も増えていると聞きます。

そこで、２年前から試行錯誤しながら運用を始めた同窓会費により、それらの一部を補うことが出来つつあります。現状を直視し、同窓会の役目として、会員一人一人の協力と結束の必要性を感じます。伝統ある母校の、生徒の活躍と教育環境充実の一助となれる様、『和してひびく』うたのごとく躍動的な同窓会として発展していく事を願っています。

当番学年を経験して

25 回生　大住　真由美

今年は 25 回、35 回生が同窓会総会の当番学年にあたり、懇親会の準備をさせていただきました。

当初は各クラスの当番ということで集まったものの、どう進めていけばよいか不安だらけでしたが、同窓生の皆さんが一堂に会することのできるこの機会、出席してよかったと思っていただけるような会にしたいし、せっかく縁あって一緒にこの役を引き受けることになった当番の皆さん達ご自身も、楽しみながら取り組みましょうという気持ちで、打ち合わせや歌の練習等進めました。

当日は、多くのご来賓、同窓生の皆様にご出席いただき、あちこちから聞こえる歓声や笑顔にこちらまでうれしくなったと同時に、当番としての責任が果たせ、ほっとした気持ちになりました。これも皆様のご協力のおかげと感謝しております。

和やかな雰囲気の中で、懐かしい思い出、今のこと、これからのこと…いろいろな話の花が咲いたことと思います。この同窓会で咲いた花がまた次の機会、さらに次の機会でも咲かせることができたらどんなに素晴らしいことかと思います。

来年も多くの方が出席され、同窓会、同窓生の繋がりがより広く、深いものになりますよう願っております。

◆演奏会出演者◆ 川鍋碧里さんプロフィール

高校 57 回卒業、昭和音楽大学声楽学科卒業、同大学院音楽研究科オペラ専攻（修士課程）修了。第 4 回東京国際声楽コンクール入選、第 15 回万里の長城杯国際音楽コンクール優秀賞受賞。

藤原歌劇団準団員。㈶長野県文化振興事業団登録アーティスト。現在昭和音楽大学附属音楽教室講師を務める傍ら、同大学音楽研究科音楽芸術専攻音楽芸術表現領域（修士後期課程）に在籍し研究活動も行っている。

2013、2014 年、伊那市においてリサイタルを開催。

平成 27 年度総会のお知らせ

◆ 期　　日　平成27年5月30日（土）
◆ 会　　場　伊那市生涯学習センター「いなっせ」
◆ 当番学年　高校26、36回生

※詳細が決まりましたらお知らせいたします。

◆平成25年度伊那弥生ケ丘高校同窓会　事業報告◆

■事　業

事　業　名	内　容
会報発行	◇H25.10.20発行、会員・学校職員・在校生へ配布
総会の充実	◇平成26年度総会において卒業生による演奏会を計画
会則の見直し	◇組織の役割を明確化し、機能させるため検討を行なった
同窓会活動支援	◇会費を集金した支部について、その額の20％を還元し、組織の充実等の資金として活用できるよう支援を行なった
母校の教育活動支援	◇全国大会出場クラブ激励金 （弓道部　器楽部　書道部　華道部　英語部　男子ソフトボール） ◇学校備品の寄贈（大型テント、生徒用ロッカー）100万円相当 ◇卒業生への記念品（卒業証書ホルダー）の贈呈

■会議等　○総会1回　○支部長会2回　○理事会3回　○専門委員会 随時

◆平成26年度伊那弥生ケ丘高校同窓会　事業計画◆

■基本的方針

母校では創立百周年を節目に新たな伝統を築き始め、同窓会においても記念事業の成功を足がかりとし、組織、活動の充実を目標に掲げて新しい同窓会として歩み始めています。

一昨年度より会費制を導入し、役員及び会員の皆様の多大なるご理解とご協力を頂きまして、大変多くの会費をいただくことができています。誠にありがとうございます。皆様の大切なお気持ちに応えられますよう、導入の際に明記したように母校の教育活動支援、同窓会活動の充実等に大切に活用させていただきます。会費導入にあたりまして、皆様からお寄せいただきました様々なご意見を尊重し、またそれらについて充分討議して、組織の機能の充実を図り、会員、母校へ還元できる効果的な活動を推進していきます。

より多くの会員の皆様にご理解いただける同窓会となるべく努力してまいります。

■事　業

事　業　名	内　容
会報発行	◇年1回発行 ・会員に関心と理解を深めてもらうことを目的に同窓会の活動や支部の様子、学校の近況等を掲載する ・全会員、学校職員、在校生に配付する
会則の見直し	◇組織の役割を明確化し、より機能させるため見直しを行なう
支部活動支援	◇会費を集金した支部について、その額の20％を還元し、組織の充実等の資金として活用できるよう支援を行なう ◇支部組織を確立するための支援を行なう
母校の教育活動支援	◇教育諸活動への支援 ・クラブ活動助成　・学力向上、進路希望実現のための支援事業への助成 ・その他必要な助成 ◇卒業生への記念品（卒業証書ホルダー）の贈呈

■会議等

○正副会長会　・同窓会業務推進等全般について検討する

○理　事　会　・同窓会活動を推進し、組織の確立を図る
・専門委員会を設置し、課題解決、効果的な活動の推進を行なう
（会費・教養文化・広報・会則）

○支部長会　各支部長により構成し、年1～2回開催する

○総　　会　年1回開催し、事業、決算等の承認を行う

平成25年度伊那弥生ケ丘高等学校同窓会一般会計　決算書

（平成25年4月1日～平成26年3月31日）

収　入　11,610,316円
支　出　8,074,350円
差　引　3,535,966円（次年度へ繰越）

収入の部　　単位：円

科目		予算額	決算額	増減	摘要
1 繰越金		3,373,922	3,373,922	0	前年度より
2 会費		4,220,000	8,192,500	3,972,500	
	1 会費	3,000,000	6,972,500	3,972,500	会員6,786人
	2 入会金	1,220,000	1,220,000	0	新入生244名@5,000円
3 雑収入		1,008	43,894	42,886	預金利息、同学年会残金 他
合計		7,594,930	11,610,316	4,015,386	

支出の部　　単位：円

科目		予算額	決算額	増減	摘要
1 事務費		2,710,000	1,777,868	△ 932,132	
	1 報酬	1,200,000	1,043,000	△ 157,000	事務局職員等賃金
	2 事務用品費	150,000	198,409	48,409	文具等
	3 光熱費	60,000	48,107	△ 11,893	電気、ガス等
	4 通信費	500,000	224,867	△ 275,133	郵送料、電話使用料等
	5 印刷費	400,000	134,245	△ 265,755	帳票等各種印刷
	6 雑費	400,000	129,240	△ 270,760	振込手数料等
2 交際費		180,000	166,750	△ 13,250	祝儀、香典、餞別他
3 会議費		100,000	27,572	△ 72,428	支部長会他
4 旅費		150,000	86,740	△ 63,260	支部長会、東京支部総会
5 事業費		3,540,000	3,368,830	△ 171,170	
	1 総会費	500,000	285,639	△ 214,361	懇親会補助、当番生お礼等
	2 講演会費	100,000	74,005	△ 25,995	総会音楽会
	3 会報発行費	1,100,000	616,646	△ 483,354	印刷費、郵送費等
	4 支部活動費	600,000	1,126,100	526,100	支部活動支援
	5 記念品費	140,000	96,440	△ 43,560	卒業生卒業証書ホルダー
	6 クラブ関係費	100,000	170,000	70,000	全国大会出場祝他
	7 教育活動支援費	1,000,000	1,000,000	0	教育諸活動支援
6 広告費		120,000	146,590	26,590	新聞広告代
7 予備費		794,930	2,500,000	1,705,070	基金積立
合計		7,594,930	8,074,350	479,420	

△：決算額が予算額より少ない場合

平成26年4月15日　監査の結果正確且つ適正に処理されていることを認めます。
監事　佐々木　はま子
監事　小　松　富美子

平成26年度伊那弥生ケ丘高等学校同窓会一般会計　予算書

（平成26年4月1日～平成27年3月31日）

収　入　7,742,000円
支　出　7,742,000円
差　引　0円

収入の部　　単位：円

科目		予算額	前年度予算額	増減	摘要
1 繰越金		3,535,966	3,373,922	162,044	前年度より
2 会費		4,205,000	4,220,000	15,000	
	1 会費	3,000,000	3,000,000	0	会員3,000人
	2 入会金	1,205,000	1,220,000	15,000	新入生241名@5,000円
3 雑収入		1,034	1,008	△ 26	預金利息他
合計		7,742,000	7,594,930	147,070	

支出の部　　単位：円

科目		予算額	前年度予算額	増減	摘要
1 事務費		2,460,000	2,710,000	△ 250,000	
	1 報酬	1,200,000	1,200,000	0	事務局職員賃金
	2 事務用品費	200,000	150,000	50,000	文具等
	3 光熱費	60,000	60,000	0	電気、ガス等
	4 通信費	300,000	500,000	△ 200,000	郵送料、電話使用料等
	5 印刷費	400,000	400,000	0	帳票等各種印刷
	6 雑費	300,000	400,000	△ 100,000	振込手数料等
2 交際費		200,000	180,000	20,000	祝儀、香典、餞別他
3 会議費		50,000	100,000	△ 50,000	支部長会他
4 旅費		100,000	150,000	△ 50,000	支部長会、東京支部総会
5 事業費		4,400,000	3,540,000	860,000	
	1 総会費	400,000	500,000	△ 100,000	懇親会補助、当番生お礼等
	2 講演会費	300,000	100,000	200,000	総会講演会
	3 会報発行費	1,100,000	1,100,000	0	印刷費、郵送費等
	4 支部活動費	300,000	600,000	△ 300,000	支部活動支援
	5 記念品費	100,000	140,000	△ 40,000	卒業生卒業証書ホルダー
	6 クラブ関係費	200,000	100,000	100,000	全国大会出場祝他
	7 教育活動支援費	2,000,000	1,000,000	1,000,000	教育諸活動支援
6 広告費		200,000	120,000	80,000	新聞広告代
7 予備費		332,000	794,930	△ 462,930	
合計		7,742,000	7,594,930	1,47,070	

△：予算額が前年度予算額より少ない場合

平成25年度伊那弥生ケ丘高等学校同窓会基金積立会計　決算書

（平成25年4月1日～平成26年3月31日）

単位：円

前年度末基金額	今年度変動額				今年度末基金額	摘要
	積立額	取崩額	利息	計		
2,500,000	2,500,000	0	0	2,500,000	5,000,000	

平成26年度伊那弥生ケ丘高等学校同窓会基金積立会計　予算書

（平成26年4月1日～平成27年3月31日）

単位：円

前年度末基金額	今年度変動額				今年度末基金額	摘要
	積立額	取崩額	利息	計		
5,000,000	0	0	0	0	5,000,000	

同窓会だより

なつかしい同窓生の方よりお便りをいただきました

◇同窓会に寄せて　池上きみ（高女22回）

「原稿を書いてほしい」と言われ一度は辞退しましたが、97才になった現在、もう原稿を書くなどということは二度とないことを思いペンをとりました。

昔々の話を聞いてください。小学校6年生の頃には女学校（現伊那弥生ケ丘高等学校）の先輩達が素敵であこがれました。和服を着て、袴をはき、靴を履いて颯爽と歩いていました。女学校から大学へ進む人はクラスで2、3人でした。私は何とか進学することができ、東京での生活が始まりました。大学の寮に入り親友もできました。東京支部同窓会総会に出席し、なつかしい方々にも再会できて幸せでした。

私は20年間ほど高校に勤務した後、母校の同窓会役員として理事、副会長、会長を務め、平成16年まで役員の皆さんと協力して無事務めることができました。

母校は平成23年に創立百周年記念式典が行われました。今後はお若い皆さんが同窓会の発展にご尽力くださることを期待いたします。

伊那弥生ケ丘高等学校は不滅です。

◇出逢い ～一筋の道～　池上信子（高校2回）

久し振りに同窓会総会に出席してみました。長い歴史の流れかさすがに高齢者は少なく、当番学年の皆さんが多く、華やいでいました。「高嶺そびやぐ伊那の丘」…忘れていた校歌が蘇ってきました。

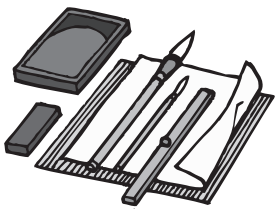
私が入学したのは昭和21年（1946年）の終戦直後の4月でした。それまで勤労奉仕ばかりでしたから大変嬉しく、新生活に戸惑いながらも、学べる事に父母に感謝でした。

当初の担任は両角先生で書道担当でした。坊主頭に黒の上着を着ていて、一見“お坊さんかな”と思わせるような風貌でした。まさか将来を決める出逢いになるとは思ってもいませんでした。先生は大変几帳面なお方で、日常の文字を美しく書くことが大切と、学級日誌や提出物等大変厳しかったように思い出します。先生には“かな書道”を学びましたが、適切な言葉と共に努力すると認めてくださって、それが一層の励みとなって興味が深まっていきました。授業以外にも細事（小字）練習の宿題が大廊下に掲示され、数週間後に提出となり、バレーボールをやっていた私は、必死でため書きをして間に合わせた作品が残っています。現在小作品が書ける“ルーツ”がここにあるのではと実感しています。

長い人生を書一筋に努力を重ね、一生の仕事として継続できることは、両角先生との出逢いがあったからであり、その他多くの方々に支えられて仕事ができることは大変幸せと感謝の日々です。

今後も体力の続く限り、書芸術の継承と発展に努めてまいる所存でおります。

同窓会のますますのご発展を祈念いたします。



学校の近況

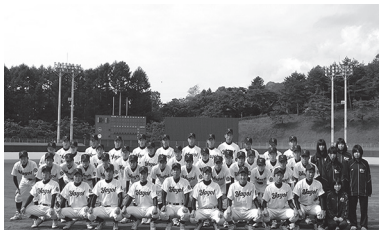
創立103年となった母校は、各学年6クラス、700名を超える生徒が、長年受け継がれてきた「自主自立・文武両道」を重んじ、日々、学習、クラブ活動、生徒会活動などに熱心に取り組んでいます。

◆ 平成25年度クラブ活動の状況

野　球　部

野球部は、現在1年生12名、2年生19名、マネージャー6名、総勢37名で活動しています。ここ5年間では県大会出場5回（そのうちベスト8が1回、ベスト4が1回）、南信大会優勝1回、準優勝2回、夏大会シード校2回と華々しい成果をあげ、南信を代表するチーム、長野県を代表する公立高校に成長しつつあります。しかし、野球だけをしている部活ではありません。弥生ヶ丘高校の目標でもある文武両道を発展させ、文武不岐をかかげ、授業を集中してうけ、クラブの時間でも自主学習の時間をとるなど、勉学の向上にも励んでいます。また、学校行事にも積極的に参加し学校全体を引っ張っていけるような組織を目指しています。

日常生活を通じて、人間性を高め、技を磨き人間力で甲子園を掴み取りたいと考えております。今後とも、同窓生みなさまのご支援ご協力をよろしくお願い致します。



男子ソフトボール部

昨年秋の新人戦で飯山北高校に勝ち、全国選抜大会出場を果たしました。その時に全国大会1勝をめざして挑んだのですが、九州産業大学付属九州高校にコールド負けを期し、全国の壁の高さを実感しました。その一方で、もう一度全国大会に出場したいという思いが高まりました。1年生が大勢入部してくれたことも刺激になり、今までにない高い意識を持って練習に取り組み、インターハイ出場をめざしたのですが、県大会で勝利したものの、北信越予選ではいいところなく敗退してしまいました。

強くなるために一生懸命になりつつも、みんな仲良く、楽しくソフトボールができたことに感謝しています。かつて弥生男子ソフトボール部は強く、全国大会でも勝ち進む力があったと聞いています。全国大会1勝の夢は頼もしい後輩に託しますが、今回の活躍が同窓生の皆さんの喜びになれば、私たちにとっても幸せです。

器楽クラブ

器楽クラブは、本校の中でも伝統のあるクラブです。全国と県大会でのコンクール出場をはじめ定期演奏会、文化祭や音楽会での発表、春と夏の合宿と年間を通じての活動は非常に活発です。また、今年度も昨年度に引き続き、同窓会総会にお招きいただき、演奏をさせていただくことができました。

今年も多くの新入部員を迎えることができましたが、部員同士とても仲が良く、厳しい中でも楽しく毎日の練習をしています。また、7月24日、25日には、全国コンクールでの発表が控えており、全国の中で負けないレベルの演奏をするため、部員一同心を合わせてがんばってきました。

パートは主に6つのパートに分かれます。弦楽合奏のヴァイオリンに当たる第1と第2のマンドリン、ヴィオラに当たるマンドラ、チェロに当たるマンドセロ、そしてギターとコントラバスです。合奏は時に激しく、また時には甘くロマンチックに、また時には悲しく音を響かせます。

今まで、部員一同皆様の心に残る高いレベルの演奏をめざして、休日も含めて毎日の練習にがんばってきました。今度の全国大会で3年生は引退となり、8月からは1.2年生による活動となりますが、これからも更に上をめざして努力していきたいと思います。

本年度各大会の状況（把握分）

☆南信大会

優　勝 ○弓道部（男子／団体・個人）　○ソフトボール部（女子）
○テニス部（女子／団体・個人）○水泳（女子／個人）

準優勝 ○弓道部（女子／団体）○テニス部（男子／個人）
○陸上部（女子／個人）○水泳（女子／団体・個人）

第3位 ○バスケットボール部（女子）○弓道部（男子／個人）
○卓球部（女子／個人）　○水泳（女子／個人）
○テニス部（男子／団体・個人　女子／個人）
○ソフトテニス部（男子／団体）
○バドミントン部（女子／団体・個人）
○陸上部（男子／個人、女子／個人）

☆県大会

優　勝 ○ソフトボール部（男子）○フェンシング（男子／個人）
○少林寺拳法（女子／個人）

準優勝 ○弓道部（男子　個人）

☆北信越大会

第3位 ○フェンシング（男子　個人）

☆全国大会　出場

○**器楽部**（団体）○**弓道部**（男子／個人）
○**フェンシング**（男子／個人）○**少林寺拳法**（女子／個人）

◆卒業生の進路状況（平成26年3月）

進路先	進　学							就　職			その他			合 計
	国公立大	私立大	国公立短大	私立短大	医看専門	他専門	計	公務員	民間	計	浪人	その他	計	
男	**14**	**61**	**2**	**1**	**5**	**5**	**88**	**1**	**0**	**1**	**14**	**1**	**15**	**104**
女	**8**	**62**	**8**	**18**	**20**	**8**	**124**	**1**	**5**	**6**	**2**	**3**	**5**	**135**
計	22	123	10	19	25	13	212	2	5	7	16	4	20	239
合格延数	23	255	11	32	35	13	369	2	5	7				376

将来の進路を見据え、一人ひとりがしっかりと目標と意欲を持って日々努力しています。また、土曜休業完全実施の中で、休日における生徒の学習の機会の保障と学力向上、進路実現のため、学習室等を利用して「弥生塾」が設置されています。

同窓会の皆様が納めてくださる同窓会費のおかげで、
平成25年度は次のものをいただきました。ありがとうございました。

大型テント　4台

ご覧のように、かなり大きなものです。文化祭をはじめ、競歩大会などでも大活躍間違いなしです。あればよいことはわかっていますが、なかなか購入できず、行事のたびに近隣の高校から借りていました。早速文化祭で活躍しました。ありがとうございました。

生徒用ロッカー　3クラス分

ロッカーの一部を新しくしていただきました。新しいものは、扉の開け閉めが楽に出来、さらに大きな音がしにくいのがありがたいです。奥に写っているものが古いものです。扉がきちんと閉まらないものが多くなっていました。まだ、3クラス分しかありませんので、古いロッカーを使っている生徒たちはうらやましそうにしています。

県からの予算が毎年削減され続け、さらには灯油代の高騰により、一昨年度から灯油代捻出のため、各教科の研究教材費（教員が使う参考書等）の予算がなくなってしまいました。県立高校であるにもかかわらず県からの予算裏付けがされず保護者負担も増加しています。学校でもできる限りの節約をしていますが、厳しい状況が続いています。そんな中、購入希望があっても対応できていなかった高額な備品を寄付していただき、本当にありがとうございます。

同窓会費を納めてくださっている先輩の皆様、集金に歩いてくださっている役員の皆様に心より感謝いたします。ありがとうございます。

平成 26 年度会費納入のお願い

平成24年度より、会員の皆様に会費の納入をお願いしています。会費は同窓会のより充実した運営、母校の教育諸活動の支援等に活用させていただきます。今年度につきましては昨年度からの継続事業として、生徒用ロッカー(250万円相当)を学校へ寄贈することを総会においてご承認いただきました。近年財政面において公立高校を取り巻く教育環境は大変厳しいものがあり、同窓会の役割の一つである母校の生徒の活躍と教育環境整備のための支援を本年度活動の重点としました。百年間積み重ねられてきた伝統にふさわしい活動ができる体制を確立し、その役割を果たしていくために趣旨を御理解いただき、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

1　**金　　額**：年会費　1,000円
2　**納入方法**：上伊那各支部：支部役員が訪問しますのでその際に納入してください。
　　上記以外：同封の振込用紙にて郵便局よりお振り込みください。(手数料は同窓会負担)
3　**納入期間**：平成26年12月20日までにお願いします。

※なお、80歳以上の会員の方は名誉会員とし、会費の納入は任意とさせていただきます。
(現在終身会費制の導入について検討しています。合わせてより効率的な会費納入についても検討しています。
ご意見をお聞かせください。)

支部活動の状況

それぞれの支部において、長年引き継がれている事業や独自の事業が行われています。また、構えず気楽に参加できる会を開いている支部もあります。

さまざまな年代の会員の交流が深まり有意義な会となっています。

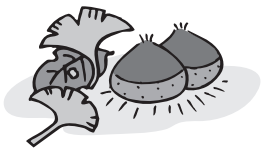
- **赤穂支部**
  総会　日帰り旅行　音楽会
- **西春近支部**
  DVD「いのちありて」観賞会
- **日影支部**
  文集「いのちありて」読書巡回
- **高遠支部**
  おやき作り体験

おいしいおやきの
作り方伝授します

※支部活動の様子について情報提供をお願いします。

役員紹介 (平成26年度改選)

会　長	小坂　博子	理　事	向山　敏恵
副会長	久保田　裕子	〃	広瀬　夏葉子
〃	西原　功	〃	窪田　正利
理　事	春日　絢子	〃	小松　正芳
〃	宮坂　紀子	〃	百瀬　哲也
〃	渡辺　美江	監　事	小松　登美子
〃	中原　美穂子	〃	金沢　妙子
〃	小林　里美	幹　事	竹松　ゆかり
〃	中村　喜久恵	〃	伊藤　圭子
〃	下島　典子	事務局	田中　真奈美
〃	中村　繁子		
〃	守屋　あつ子		
〃	木下　久美子		



編集後記

こんな人になりたい―「志が高く、魂は熱く、公明正大で…」そして「人のために汗と涙を流す人」―　同窓生にはお手本になる方が大勢いらっしゃいます。

伊那弥生ヶ丘高等学校同窓会報 第5号 平成26年9月25日発行

発行人：伊那弥生ヶ丘高等学校同窓会　同窓会長 小坂博子
〒396-0026 長野県伊那市西町5703　TEL/FAX.0265-76-0615　E-mail：yayoidoso@heart.ocn.ne.jp
題　字：花岡多賀（旧姓：北林・高女36回）伊那市西春近在住
印　刷：有限会社マスマタ印刷